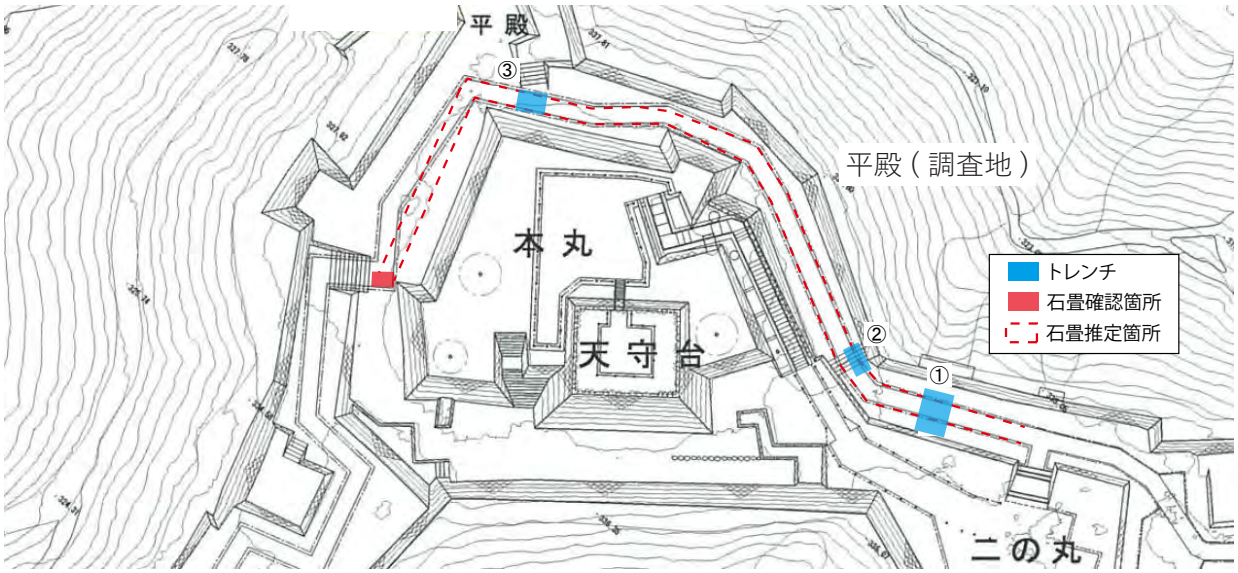
令和５年度

竹田城跡遺構現状確認調査現地説明会資料

～ 平殿 ～

2023.9.23

朝来市教育員会 文化財課



調査位置図

①
トレンチ

②
トレンチ

③
トレンチ

平殿の調査結果

石畳

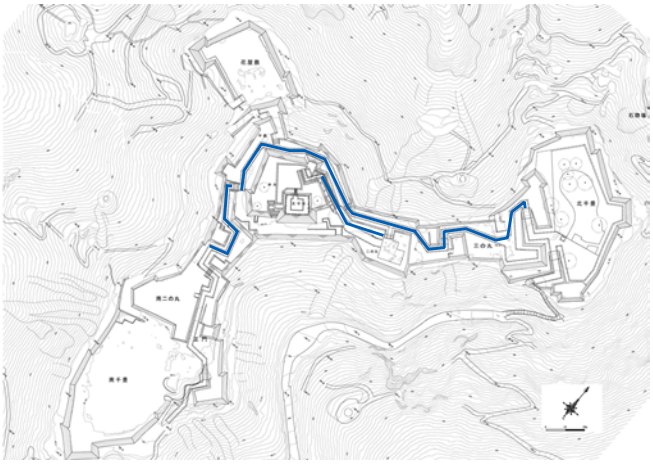
今回調査した３カ所の調査区において石畳を確認しました。花屋敷との接続部で見つかった石畳は石垣と同じ花崗岩を用いていて幅が約 170㎝あり、残り具合は良好です（写真２）。石畳は石垣築城時に土台となる地面に礫が敷かれ（掘り込み地業）、その上に土で整地され、通路面がつくられたことがわかりました（図２）この石畳は本丸石垣や花屋敷と同時期につくられたと考えられます。

既往調査で確認されたものと合わせると三の丸から二の丸、平殿、南二の丸周辺まで敷設されていたことがわかりました。これだけの大規模な普請は、赤松氏一大名による事業ではなく、豊臣政権下の支援によって成されたことがうかがい知れます。

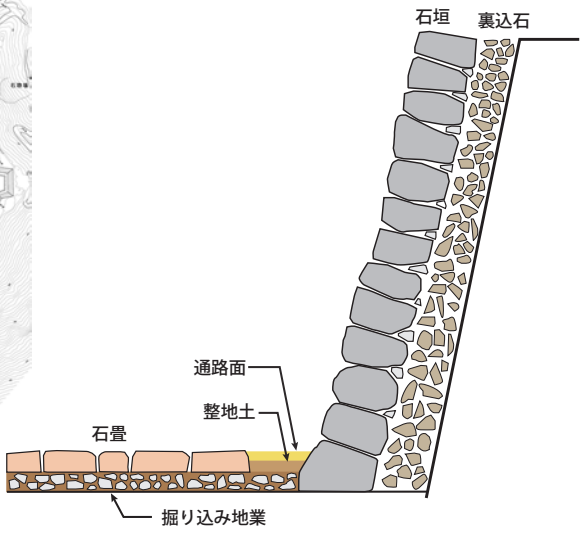
（写真 1）部分的に残る石畳　南西より

（写真２）石畳（花屋敷接続部）西より

（写真３）石畳（斜面部分）　北東より



（図１）石畳確認箇所



（図２）石垣と石畳　模式図

石段（②トレンチ）

斜面になっているところの中央部分から石段５段を確認しました。石段の１段目には石畳が接続しています。この石畳は三の丸から続いています。また２段目の石段の脇からは石段に伴う石積みを確認しました。石積みは２段分残っていますが、本来はさらに上に２段ほど積まれ、石垣と同じ高さぐらいあったと考えられます。石段の５段目まで石積みが続いておりましたが、抜き取られており今は見ることができません。

石段の３段目から５段目にかけての石垣際で、こぶし大程の石が見つかりました。これは石垣の裏込めとして充填されたものと思われます。在城期は土で埋められていましたが、石積みが抜き取られていることで姿を現しました。この裏込め石は石垣の水はけを良くしたり、地震の際に崩れにくくする機能がありました。

石段と石積み　南東より

後世の掘り込み（①トレンチ）

①トレンチの両端から石畳の一部を確認しました。石畳は２石しか残っておらず、その大半は後世の掘り込みの影響を受けて失われたと思われます。

中央からは掘り込みを確認することができました。この掘り込みは後世に掘られ、中には石や近代のゴミ、石垣の築石と思われものが放り込まれていました。この場所は溜まった水を排水するためにつくられたと考えられますが、なぜここにつくられたかなど、はっきりしたことは分かっておりません。

トレンチ東側では石垣の根石を確認しました。この部分の石垣の築石は他の築石より大きい石が用いられています。

後世の掘り込み　北西より

石垣の根石　北西より

まとめ

以上のように今回の発掘調査で新たに石畳、石段を確認することができ、石畳が石垣の築城と同時期につくられたことが明らかになりました。今回の調査で得られた情報は来年度の整備に活用していく予定です。

朝来市教育委員会文化財課
〒669-5153　兵庫県朝来市山東町大月 91-2　TEL：079-670-7330　FAX：079-670-7333